

AI 駆動開発と 高度エンジニアリング実践

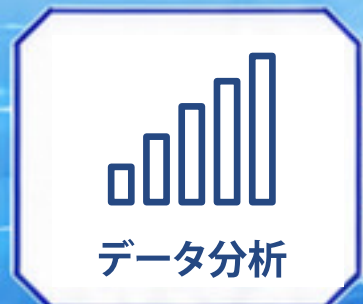
AIで進化するソフトウェア開発。

次世代の開発手法を実践的に学ぶ。

✳️ Claude Code



コード生成



データ分析



自動化・効率化



テスト自動化



クラウド連携



ネットワーク技術

スピードと品質が求められる現代のソフトウェア開発では、AIを活用した「AI駆動開発」が注目されています。

本セミナーでは、コード自動生成や効率的なテストなど、従来のプロセスを変革する実践手法を学びます。

【講座内容(全11回)】

- ・前半(第1～6回)：座学とハンズオンで基本と手法を徹底学習
- ・後半(第7～11回)：AI駆動開発を活用し、自社の課題解決アプリを構築

Pythonなどのプログラミング知識は不要です。

自社プロジェクトに活かせるアイデアの獲得を目指し、ぜひご参加ください！

対象者

- ▶ 山梨県内の情報通信に携わるエンジニア
- ▶ その他県内企業・自治体等の情報部門担当者
- ▶ 山梨県内で情報通信を学ぶ学生

参加費

全11回 10,000円

- ※ 実習用のClaudeライセンス料を含んでいます。
- ※ 学生は無料です。

お申込みはこちら



申込締切

9月17日(木)

※ 定員を超える場合は抽選となります。



オンラインでの無料参加も募集しています。

オンライン参加では以下の点にご注意ください。

- 前半の講座のみの参加となります。
- Claudeの有料アカウント(Pro以上)は各自ご用意ください。

お問い合わせ

(一社)山梨県情報通信業協会 TEL:055-243-2046 E-mail:staff@ysa.or.jp

主催:山梨県(DX課) 協力:山梨大学、(一社)山梨県情報通信業協会、Shingen.py

詳細はホームページへ
<https://www.ysa.or.jp/>



カリキュラム

【前半／第1回～第6回】完成イメージアプリの構築

完成イメージアプリ（例題アプリ）を題材として、その構築手法を学習します。
本カリキュラムでは「製造業の不良報告分析AI」を題材とした講義と演習で理解を深めます。

第1回（10月1日）	AI駆動型開発の全体像と Claude・Claude Code の基礎 生成 AI・LLM・コーディングエージェントの最新動向を知り、開発環境の構築、Claude Code の基本操作とプロンプト設計、CLAUDE.md の作成など、AI 駆動型開発の基礎を学習します。
第2回（10月8日）	アプリ設計と土台づくり 計画モードでの要件定義・仕様書・アーキテクチャ案の作成、Artifacts／Claude Design による画面プロトタイプを試作、雛形生成と Git 管理、データモデル設計と簡単な EDA などを学習します。
第3回（10月15日）	OpenRouter API／ローカル LLM の組み込み（AI 機能の中核） OpenRouter API の呼び出しとチャット機能の実装、構造化出力（JSON 抽出）による帳票の構造化、Langfuse での可視化やローカル LLM への切替などを学習します。
第4回（10月22日）	データ連携・RAG・ツール活用（不適合報告書の取り込み） 不適合報告書（Excel／PDF）の OCR・構造化抽出、ベクトル DB（Chroma）を使った根拠付き回答（RAG）の実装、Tool use や MCP コネクタの活用などを学習します。
第5回（10月29日）	データサイエンス実践：不良データ分析と KPI ダッシュボード 製造 KPI・QC 七つ道具の基礎、4M 分析による根本原因の分類、pandas による不良データの集計とパレート図・管理図・トレンド分析、KPI ダッシュボードの実装などを学習します。
第6回（11月5日）	テスト・デバッグ・ドキュメント・デプロイ／UI の最終仕上げ Claude Code によるテストコードの生成と実行、/code-review・/security-review での品質・脆弱性の点検、hooks による自動化、Docker Compose 等での簡易デプロイなどを学習します。

【後半／第7回～第11回】自社課題の解決アプリの構築

各自で自社の課題を設定し、その課題解決アプリの仕様作成から実装までを体験します。
最終回には成果発表会を行います。

第7回（11月12日）	課題設定と仕様決定 自社の業務課題を洗い出し、対象データと解決アプリの狙いを整理、アプリ仕様を言語化し、計画モードで実装計画とスコープを確定、CLAUDE.mdの雛形を作成します。
第8回（11月19日）	実装①（自社課題の解決） 前半で学んだ手法で各自のアプリを実装します。ワークツリーやサブエージェントでの並列開発、MCP／コネクタでの社内ツール連携も活用します。
第9回（11月26日）	実装②（機能拡張・データ連携の作り込み） 実データでの動作を確認し、RAG／分析・ダッシュボードなど中核以外の機能を組み込み、計画モードで次の実装計画を更新します。
第10回（12月3日）	実装③（ブラッシュアップ・テスト・発表準備） 機能追加・UI 改善・不具合修正でアプリをブラッシュアップ、テスト・デバッグと簡易デプロイで「動くアプリ」に仕上げ、発表資料・デモを準備します。
第11回（12月10日）	発表会・講評 完成したアプリをデモし、課題・アプローチ・成果を発表、相互レビューで改善点とベストプラクティスを共有し、社内展開プランを作成します。

※内容は変更が生じる可能性があります。